

## Ⅱ 植 生 概 観

### Übersicht der Vegetation

藤沢市の植生は本来、海岸から北部の市域まですべて冬も緑の常緑広葉樹林、すなわち海岸沿いの沖積低地はタブノキを主とするイノデアタブノキ群集が発達していた。また土壌が浅く、比較的乾きやすいところではスダジイを主とするヤブコウジースダジイ群集によって占められていた。また国道1号線付近を中心にして、それより北部は同じ常緑広葉樹でも深根性のシラカシを主とするシラカシ群集によって占められていた。しかし、極端な山地がなく、比較的なだらかで土地利用が容易であり、しかも古くから京の都と江戸の幹線道の東海道の宿場でもあった藤沢市は、さまざまな人間の影響下に、自然環境もしだいに本来の自然から変えられてきた。とくに裸の大地を被っている、うすい緑の植衣、すなわち自然植生は現在ではほとんど他の日本の都市や産業立地と同様に消失させられている。さいわいにも藤沢市では、かつて緑の江の島といわれ、宗教的な聖域として残されてきた江の島、さらに対岸の竜口寺周辺の社寺林を主とするスダジイ林、あるいはタブノキ林は小面積であるが現在でも残されている。また鎌倉市との境界付近に残されていた、このようなスダジイ、タブノキを主とする照葉樹林も両市側からの住宅開発その他によって現在では斜面沿いにわずかに残されているにすぎない。

第1回の藤沢市全域植生調査(1971)では北部においては、桐原町などを除いて比較的多様な



Fig. 3 藤沢市北部宮原の田園景観。屋敷林としてシラカシ群集ケヤキ亜群集が広く残されている(11m)。

Bild der Landschaft im Nordteil der Stadt Fujisawa. Als Hofwald entwickelt sich das *Quercetum myrsinaefoliae*, Subass. von *Zelkova serrata* (11 m ü. NN).

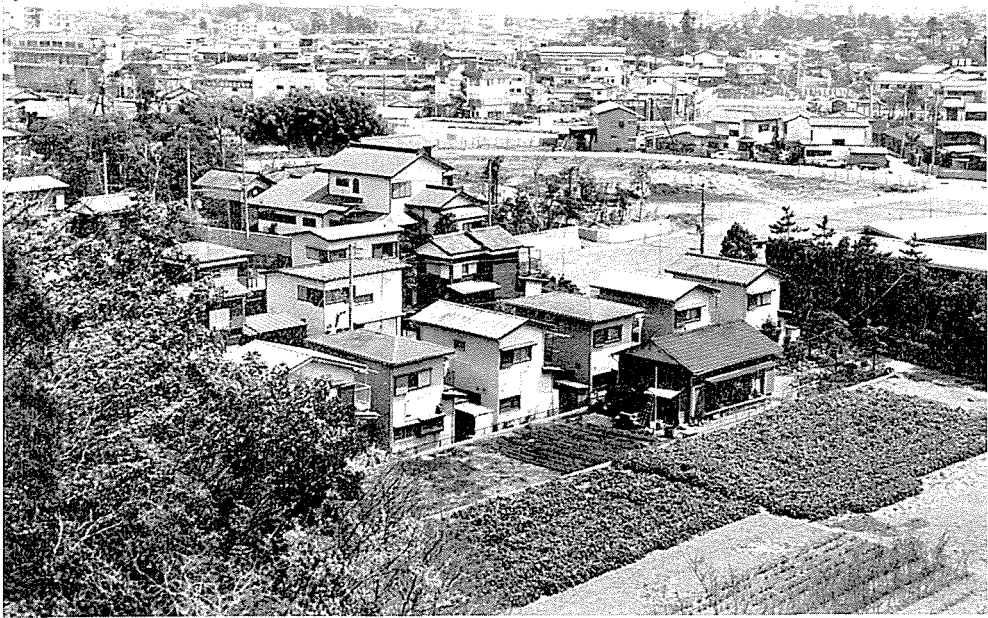


Fig. 4 城南2丁目, 5丁目付近の概観。中央を横切る藤沢バイパス以南は, 丘陵地にクロマツ植林を残し, 住宅地化されている (海拔14m)。

Übersicht der neu-entwickelten Siedlungsfläche (Jonan 14 m ü. NN, Stadt Fujisawa).

田園景観が残されていた。すなわち河川ぞいの沖積低地や水田として, ゆるやかな斜面は畑地として利用されてきた。沖積低地と台地, 丘陵地との境の斜面は帯状に, その土地本来のシラカシ群集の典型亜群集, ケヤキ亜群集などの残存自然植生あるいは二次林としてのクヌギーコナラ群集, 一部モウソウチクの植林, スギ, ヒノキの植林を含めて立体的に森林植生と田園景観が共存してきていた。しかし, 今回の植生調査までの10年の間に, 旧東海道線を境にする南側の藤沢駅中心部の再開発地域ではその土地の潜在自然植生に応じた小面積でも立体的な森的緑化もこころみられている。反面, 北部では住宅, 産業立地, 道路建設などによって, その土地本来の自然植生はもとより比較的自然度の高い, いわゆる雑木林としてのクヌギーコナラ群集, モウソクチク林, スギ, ヒノキ植林も含めて森的な植生はかなり侵蝕されてきている。しかし, 藤沢市域は広域的にみれば本来全地域が, 日本の他の地方にくらべて地形的にもゆるやかで, 自然や土地の利用が産業的, 都市化, 住宅団地造成も可能であるが, 幸いにも, まだ最後の市民のふるさととしての田園景観が北部を中心に残されている。同時に江の島, 湘南海岸沿いでは, まだ緒についたばかりであるが, その土地本来の自然植生を基礎にして緑の環境創造もこころみられている。新しく開発された焼却場, 下水処理場などにおいても, そのような拠点方式による従来の一面的な緑から, 立体的なふるさととの森の環境創造が行なわれはじめています。

しかし藤沢市の植生を概観するとき, 現在ではほとんど自然植生はない。そして, さまざまな

代償植生におきかえられている。したがって現存植生図，すなわち代償植生図といってもよい程である（現存植生図，植生自然度図および潜在自然植生図の比較）。しかし，この残されているわずかな自然植生の断片，あるいは二次林，植林も含めた立体的な藤沢市域のふるさとの景観の主角を構成している樹林を出来るだけ質の高いものにかえてゆくことが強く望まれる。藤沢市の現存植生がこれ以上悪化しないで，開発に際しては潜在自然植生を基礎にした素肌の緑の環境が創造されることが現存植生の概観を通して強くのぞまれる。



Fig. 5 藤沢市北部，台地斜面に残されている屋敷林，竹林。低地は水田として利用されている（高倉 25m）。

Entlang des Hanges erhaltenen Hofwälder, Bambusbestand. Im Vordergrund Reisfelder (Takakura 25 m ü. NN).